

第2章 駅周辺の現況と課題

第1節 村上駅周辺の現況等

第1 村上駅周辺の現況特性

村上駅周辺地区は、駅を中心とした半径 500m内には約 1,700 人が、半径 1,000m内では約 10,000 人（市全体の約 15%）が居住しています。古くから宅地が形成されている住区では、住民の高齢化や世帯当たり人員数の減少が見られます。また近年では、空き地や未利用地が増えて、賑わいの低下や生活環境や景観面での不安要素となっています。

JR 村上駅は 1 日あたり約 3,600 人が乗降し、日常の通勤・通学をはじめ市外からの観光客も利用しています。市内の乗合バス路線の大半は村上駅を発着地としており、村上駅は重要な交通結節点となっています。その一方で現在の村上駅は、改札口が東側にしかないことから東西の行き来がしにくい形態となっています。駅前広場も手狭で歩行者・自転車とタクシー・乗合バス、市民や観光の送迎車などの動線が交錯する状況にあります。

駅東側には、商店街や観光案内所のほか、村上総合病院や図書館、生涯学習推進センター、高校など多様な施設が立地しており、日常的に多くの市民が利用しています。駅西側は、駅に近接してショッピングセンターがあり、主に駅西側住民の生活拠点となっています。

<p>[①人口・世帯]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少 ○世帯人員の減少（一人暮らし世帯の増加） ○高齢化への対応 	<p>[②土地利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院移転による大規模跡地 ○空き地、空き家、未利用地 ○景観への配慮 	<p>[③都市基盤]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅西側の道路網整備 ○歩行・自転車走行の環境整備 ○鉄道横断箇所不足 ○公園・広場等の不足 ○駐車場の整備
<p>[④都市機能・サービス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区内に多様な市民が存在（高校生、通院者、その他公共施設利用者など） ○駅前通り商店街の活力低下 ○東西で都市機能が線引き 	<p>[⑤駅・駅前空間の機能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅前での多様な交通動線の錯綜 ○歩行者・自転車の安全確保 ○駅の東西間での連絡が無い ○駅前空間の魅力 	<p>[⑥公共交通（鉄道・バス）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の利便性 ○駅西地区の乗合バス利用環境 ○公共交通利用者、送迎者の活用
<p>[⑦にぎわい・コミュニティ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イベントによるにぎわい創出 ○イベントを開催する場 ○町屋・町人町地区との連携 ○商店街、地域コミュニティ 	<p>[⑧安全（防災）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民や来訪者が利用できる防災拠点 ○駅西での防災拠点、緊急輸送道路 	<p>[⑨他拠点との関係性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周辺他地区との機能分担・アクセス性（歩行、公共交通、道路） ○駅西口の必要性
<p>[⑩近年の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院移転に伴う大規模跡地／○住宅地整備、定住人口確保／○駅西地区の整備に伴う駅西口の必要性 		

図. 駅周辺地区の将来まちづくりにおける視点

表. 村上駅周辺地区の現況特性・課題

項目	現況特性・課題
①人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> ○人口は駅半径 500m 以内で増加、その他では減少傾向。増加傾向がみられる主な町内は、飯野西、山居町1、緑町4,5 など。 ○世帯数は駅西側で増加、東側で減少。駅前と駅西を合わせると、駅から 500m 以内では増加傾向にある。 ○高齢率 40%超が田端町、松山、35%超が飯野桜ヶ丘。20%未満は緑町5、松原町1～3 など。
②土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○旧ジャスコ跡地(現病院向け駐車場)のほか、まとまった未利用地が複数散在。 ○現村上総合病院が移転した場合、未利用地となる。 ○既存の商店街や住宅地等で空き家が存在。 ○駅周辺地区の地価は商業地、住宅地ともに低下傾向。 ○都市計画の用途地域や準防火地域、景観計画区域などに指定。
③都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○駅東側は幹線道路の配置が充実し、歩道も概ね整備。一方、駅西地区の幹線道路は国道 345 号のみで道路網が形成されていない。 ○鉄道横断箇所は、駅から離れた場所に3か所。平面横断(踏切)もある。 ○公園・広場が未整備。 ○一般車が利用できる駐車場は、旧ジャスコ跡地(約 400 台収容)のみ。
④都市機能・サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○医療[村上総合病院]、就学[村上高校、桜ヶ丘高校]、交流[中央図書館、生涯学習推進センター]などの機能が立地。居住機能は戸建て住宅中心 ○駅前～肴町間の都計道田端5号線沿線の「駅前通り商店街」を中心に、店舗や飲食店が立地。連続性に欠け、駐車スペースが殆ど無い。駅西側には駅西ショッピングセンター(原信等)のほか、国道 345 号沿線に小規模な店舗等が点在。
⑤駅・駅前空間の機能	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前広場は、東西約 40m・南北約 90m の空間内に一般車乗降場、駐輪場、バス・タクシーの乗降場があり、瀬波温泉等の送迎バスも乗り入れる。動線が輻輳し、歩行者・自転車の専用空間が確保されていない。一般車の利用スペースは5台程度。 ○駅舎内にはコンビニエンスストア、レンタカー、交番などの施設がある。 ○現状で駅西側への連絡通路や改札口は無い。
⑥公共交通(鉄道・バス)	<ul style="list-style-type: none"> ○乗合バスは、駅前を起点に乗合バス5路線と巡回バス2路線が走行。駅西側から駅へアクセスできないため、駅前へ移動している。 ○鉄道は1日平均約 3,600 人が乗降(三条駅、柏崎駅と同等規模)。 ○村上総合病院行の乗合タクシーが近隣(神林、朝日、山辺里・瀬波)から運行。
⑦にぎわい・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○村上駅周辺のイベントは「万燈神輿祭渡御～ばらはちかん～」、「軽自動車 de ふれあい直売所」、「村上駅前イルミネーション」など。 ○地区まちづくり協議会、町内会、商店街等の地元住民による組織が存在している。 ○市外からの入込も多い「町屋の人形さまめぐり」、「村上大祭」、「町屋の屏風まつり」などのイベントは駅から徒歩圏内にある。
⑧安全(防災対応)	<ul style="list-style-type: none"> ○駅から 500m 以内の指定避難所は村上高校及びびグラウンドのみ。 ○一次避難所となる公園・広場が殆どない。 ○駅西側の指定避難所は、駅から 1000m 近く離れた村上中等教育学校が最も近く、緊急輸送道路も国道 345 号のみ。
⑨他の拠点との関係	<ul style="list-style-type: none"> ○村上市街地には、①旧城下町[旧町人町・旧武家町](行政、観光、飲食)、②国道7号沿道(商業・飲食)や、③瀬波温泉(観光・宿泊)、④岩船港(観光)などの拠点があり、駅周辺地区(村上駅)はこれら拠点を結ぶ拠点となる。

項目	現況特性・課題
⑩近年の動向	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 22 年度に村上駅バリアフリー化設備の整備[車いす対応 EV、ホーム間連絡跨線橋等] ○平成 25 年 3 月に生涯学習推進センターが開設、平成 26 年 3 月に観光案内所「村上旅なび館」が開設。 ○駅西で土地区画整理事業[平成 19～21 年度]、合わせて村上駅西ショッピングセンター開設[平成 21 年 6 月]。 ○平成 25 年 5 月に村上総合病院の移転候補地が駅西に決定。

参考・村上駅周辺地区の現況図

凡 例	
●	店舗
●	飲食店
●	宿泊施設
●	行政施設
●	文化・教育施設
●	医療・福祉施設
●	交通施設
○	金融・郵便施設
●	その他施設
■	大規模公共施設用地
○	バス停留所
●	バス路線網
—	用途地域界
—	町丁界・町丁名
■	H12
■	H17 国勢調査人口(人)
■	H22

注1: 図面は住宅地図(ゼンリン電子地図: 2011年5月版)をもとに作成。(※現地確認調査は行っていない。)
注2: 建物形状表示は建築面積500m²以上の建築物とした。

■はまなす病院
病床数: 222床
診療科目: 内・精・神・産

■瀬波病院
病床数: 92床
診療科目: 内・外・産・リハ

■村上駅前地区のイベント
・万歳神輿祭(3月)～はちまん(6月)
・軽自動車のみらい販売所
・(月1回程度・村上地域振興局駐車場)
・村上駅前イルミネーション(12月)
・丸上ひな祭り(3月)
・丸上公園まつり(9月)

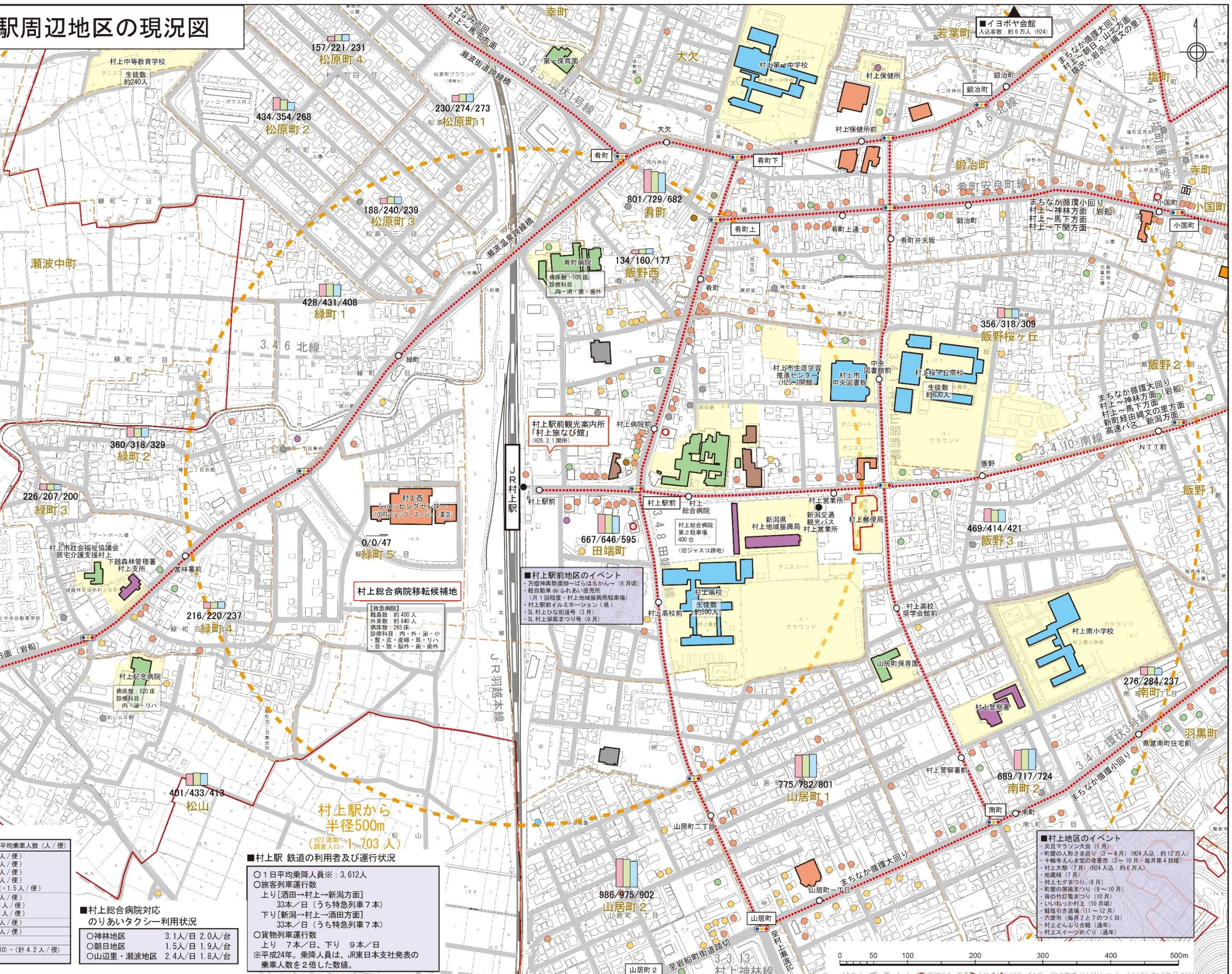
■村上駅前地区のイベント
・元旦マラソン大会(1月)
・町屋の人形まわし(3～4月)(H24入込: 約12万人)
・十輪等えんま堂の春遊市(3～10月・毎月第4日曜)
・村上大祭(7月)(H24入込: 約6万人)
・地蔵様(7月)
・村上七夕まつり(8月)
・町屋の屏風まつり(9～10月)
・宵の竹灯まつり(10月)
・いっぴいまつり(10月)
・稲刈りまつり(11～12月)
・六次産業(毎月2と7のつく日)
・村上どんぶり会戦(通年)
・村上スイーツめぐり(通年)

■村上地区のイベント
・元日マラソン大会(1月)
・町屋の人形まわし(3～4月)(H24入込: 約12万人)
・十輪等えんま堂の春遊市(3～10月・毎月第4日曜)
・村上大祭(7月)(H24入込: 約6万人)
・地蔵様(7月)
・村上七夕まつり(8月)
・町屋の屏風まつり(9～10月)
・宵の竹灯まつり(10月)
・いっぴいまつり(10月)
・稲刈りまつり(11～12月)
・六次産業(毎月2と7のつく日)
・村上どんぶり会戦(通年)
・村上スイーツめぐり(通年)

■路線バス等運行・利用状況	
路線	運行数(平日往復)・平均乗車人数(人/便)
村上～朝日・山北方面 (猿沢・岩沢・織文の里)	北中(4往復・3.5人/便) 塩野町(5往復・4.1人/便) 大須戸(4往復・4.1人/便) 高根(5往復・2.4人/便) 織文の里朝日(6往復・1.5人/便)
村上～神林方面(岩船)	岩船(3往復・3.5人/便) 松喜和(10往復・2.8人/便) 小岩内(1往復・12.2人/便)
村上～馬下方面	馬下(2往復・3.9人/便)
村上～下関方面	下関(4往復・0.6人/便)
高速バス 新潟方面	新潟(2往復・—)
まちなか循環バス	大回り(5)/小回り(10)(計4.2人/便)
せなみ巡回バス	(4便・—)

■村上総合病院対応のりあいタクシー利用状況	
○神林地区	3.1人/日 2.0人/台
○朝日地区	1.5人/日 1.9人/台
○山辺里・瀬波地区	2.4人/日 1.8人/台

■村上駅 鉄道の利用者及び運行状況	
○1日平均乗降人員※	3,612人
○旅客列車運行数	上り[酒田→村上→新潟方面] 33本/日(うち特急列車7本) 下り[新潟→村上→酒田方面] 33本/日(うち特急列車7本)
○貨物列車運行数	上り 7本/日、下り 9本/日 ※平成24年。乗降人員は、JR東日本公表の乗車人数を2倍した数値。



第2 村上総合病院の移転について

村上総合病院は、県北地域の基幹病院として、救急告示病院、災害拠点病院、へき地医療拠点病院などに指定され、地域医療における重要な役割をはたしていますが、現在の病院施設（本館）は建築から約 45 年が経過し、老朽化・狭隘化が進んでいるほか、建物の耐震性に懸念があるなど建て替えが大きな課題となってきました。

厚生連では平成 20 年頃から移転新築の検討が始まり、当初は 4 箇所（旧ジャスコ跡地、山居山、山辺里、駅西）を候補地として検討されてきましたが、検討を進める中で、旧ジャスコ跡地は土壌汚染が確認されたこと、山居山は地質に課題のあることから候補地から除かれることとなりました。このような経緯から、現在地、山辺里、駅西の 3 箇所について検討が行われることとなりましたが、厚生連において駅西を新築候補地とすることが決定され、平成 25 年 5 月村上市に対し候補地決定の報告がありました。

旧ジャスコ跡地の面積は、約 1 万平方メートルです。ジャスコ以前に精錬工場が立っていた場所で、イオン株式会社が所有しています。病院の移転場所候補として検討されていたため、平成 23 年、病院建設用地として適地かどうか確認する調査を実施しましたが、有害物質を確認したことから病院用地には不適切と判断されました。現在、アスファルト舗装されており、村上総合病院が借り受け、有料駐車場として使用しています。

病院規模・診療内容	
項目	現病院(H26.1.末現在)
施設	5階建
病床	263床
診療科目	18科
医師	26人 (常勤)
非常勤	約 7人
研修医	3人
看護師	約 175人
職員	約 340人 (全職員数)
外来患者	約 720人/日 以上
入院患者	約 220人/日
年間手術	約 4,600件
年間出産	約 310件
駐車場	
項目	現病院(H26.1.末現在)
病院敷地内	215台
隣接地	400台 旧ジャスコ跡地
職員用	55台 病院周辺
計	670台



病院入口



駅前交差点と病院・駐車場

図. 村上総合病院の概要

第3 村上駅周辺地区の“強み・弱み”

村上駅周辺地区は、鉄道駅や医療・就学・文化等の多様な交流機能を有する施設が立地することなどの活性化のために優位な条件を備えている一方で、鉄道を挟んだ東西分断や駐停車スペースの不足、低未利用地の増加に加えて、市全体の課題でもある高齢化や車社会などの課題に対応していく必要があります。

表. 村上駅周辺地区の強み・弱み

	村上駅周辺地区内の状況	村上駅周辺地区を取り巻く状況
プラスの要素※	<ul style="list-style-type: none"> ○人が日常的に集まる施設（学校、病院、オフィス、図書館等）が存在。様々な人が訪れている。 ○鉄道とバスの交通結節点として他地区を利用する人もいる。 ○駅から徒歩圏内（500m内）に約 1,700 人が居住。 ○旧ジャスコ跡地の駐車場は 400 台収容可能。 ○主な道路は歩道が整備されている。駅及び施設間の歩行・自転車移動の空間は確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道やバスなど公共交通による移動環境が整備されている。 ○JR 村上駅は特急が停車するなど、鉄道利用による観光来訪者の玄関口。駅前の観光案内所が新設された。 ○高速道路〔日本海東北自動車道〕のインターチェンジから駅前への自動車による移動環境が整備された。
マイナスの要素※	<ul style="list-style-type: none"> ●鉄道を挟んで東西が分断されている。車及び歩行等で、相互の行き来ができない。都市機能は、東西で連携していない。 ●旧ジャスコ跡地をはじめとした、低未利用地や空き家が存在。それらの利用計画が定まっていない。 ●村上駅前には、バスやタクシー、送迎車（市民・観光）等の利用する空間が十分確保されていない。 ●駅前空間や駅周辺地区内の道路は、冬期降雪時の除雪サービスが十分ではない。 ●地区居住者の高齢化が進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ●依然として車社会が浸透し、公共交通による移動は限られた人（高校生や高齢者）のみ。 ●高速道路インターチェンジから駅西側へ自動車による移動に制約がある。 ●村上総合病院の移転候補地が、駅西側に決定。今のままでは、駅東側からの移動に大きな制約が生じる。 ●村上市街地の他拠点と都市機能やサービスが重複している。

※プラスの要素は、将来のまちづくりにおいて優位な条件として積極的に活かすべき要素、マイナス要素は今後のまちづくりの負の要因として配慮もしくは解決すべき要素。

第4 村上駅周辺地区内で活動する人

村上駅周辺地区は、地区内に居住する市民に加えて、地区固有の特性から日常的に様々な人が訪れ活動しています。そうした人、あるいは企業・団体が、地区の活性化を図るうえで重要な役割を果たすプレイヤーであると考えます。それぞれの行動や意識を把握し、これからのまちづくりに活用していくことが求められます。

表. 駅周辺地区内で活動する人や企業・団体

	行動や特徴
地区住民	○常に地区内に居住／○少子高齢化が進み、東西問わず一人暮らしが多い／○コミュニティ希薄／○空き家を無くしたい／○徒歩圏内で用事をすませたい（15分で動ける範囲）／○朝、散歩する人多い／○旧ジャスコ跡地等を便利にしてほしい／○新しいもの、おしゃれなものが好き／○自由通路は、あれば便利程度／○買物は駅西（原信）、マックスバリュー等
商店街	○商品の仕入・販売・サービスをする／○売上・後継者を確保したい／○空き店舗・空き地を無くしたい／○駐車場が少ない／○田端町外の人に来て商売しているお店が多い／○近くに居住し、借家で商売／○村上総合病院の移転は困る／○大型店にない魅力がある？／○固定客が多く、意外と広範囲／○サービス業多い（飲食・酒・八百屋・理容・美容）／○他業種への配達が多く、個人客相手は少ない／○店舗数（37件）20年で半分以上
買い物客	○徒歩・自転車で購入物をする／○お金を持っている／○特定少数のリピーターが多く、店主と仲が良い／○荷物を持って歩かない／○国道7号沿いに無い特徴的なお店を好む／○ジャスコのシャトルバスに、結構乗る／○1kmを越える移動は車利用／○駐車場が無く不便／○駅東買物者は少なく、駅西側の人は駅西原信を利用
学生 (高校生等)	○通学する（鉄道・徒歩・自転車・送迎）／○高校生が多く、放課後は図書館・塾、コンビニを利用する／○市に愛着がない？／○勉強熱心／○鉄道等の待ち時間の居場所がない／○行儀が悪い（外で飲食・たむろする）／○活性化に役立つかは未知数
勤労者 (勤め人)	○職場に通う／○サービスを提供する／○車移動が主／○休日は地区内にいない／○病院の職員、病院関連業種が多い／○事業所減少により労働者も減少／○宿泊する／○飲み屋利用減少／○お客さんをどこに連れていこうか思い浮かばない
通院者	○病院に通院する／○薬局にも用事がある／○運転が困難な高齢者が増えてくる／○お見舞いの買物する／○車で来る高齢者が多い／○商店街で食事する／○前ほど混んでいないため、通いやすい
観光来訪者	○よそ者／○瀬波温泉や町屋観光を行う／○地域の情報を知りたい／○お土産を買いたい・思い出を残したい／○電車の待ち時間を有効利用したい／○一番この地域に魅力的な印象を持っている／○人との出会い・ふれあいがうれしい／○団体より個人客が増加／○休憩場所、飲食する場所がない／○お金を使う／○定期的に来るリピーターが多い／○泊まる人→安く泊まって、うまいものを食べたい（泊食分離）／○駅～町屋まで歩く人がいる（迷路のような小路が好き）／○温泉客は移動に困っていない／○目的が多様化（大祭・六斉市・海水浴・電車撮影・スポーツ・釣りなど）／○短時間で案内できない
公共交通利用者	○地区内に用事はない／○車を自由に使えない／○地区内に関心がない／○知らないお店に入りにくい／○待ち時間の居場所がない
交通事業者	◇鉄道事業者／◇バス事業者／◇タクシー会社
企業・事業者	◇病院（厚生連村上総合病院、肴町病院）／◇その他事業者
団体・組織	◇JA／◇村上市観光協会／◇地区協議会・自治会／◇まちづくり団体
行政	◇ハローワーク村上／◇県振興局・警察／◇村上市

資料：「第3回村上駅周辺まちづくりプラン座談会」（平成26年2月6日）の成果より

第2節 上位計画による位置づけ

村上市のまちづくりにおいて基本的な方針や事業を定めた総合計画や都市計画マスタープランでは、村上駅周辺の整備方針について次のように位置づけています。

表. 上位計画における駅周辺地区の位置づけ

上位計画	計画での位置づけ ※抜粋
<p>第1次村上市総合計画 [計画期間：平成 21～28 年度]</p>	<p>安全で快適な住みよいまちづくり <良好なまちづくりの推進> ・都市計画マスタープランにより、計画的で効率的な土地利用の誘導を行います。 ・魅力的でコンパクトな市街地形成に資する有効な土地利用を推進します。 <公共交通の充実> ・主要となる駅周辺の回遊性※を高め、利便性の向上、アクセシビリティの向上を図るため、東西自由通路など公共基盤の整備を検討します。 ※回遊性：駅施設や駅周辺の交通環境改善を図り、行き止まりのない動線をつくることで往来しやすくすること。</p>
<p>村上市都市計画マスタープラン [計画期間：平成 22 年度から概ね 20 年間]</p>	<p>村上駅周辺に関連する整備方針 <JR村上駅> ・橋上駅化も視野に駅西口の開設を目指す。 ・交通結節点としてパーク&ライド、駐輪場、バスプールなど、乗り継ぎ機能向上を目指す。 <JR村上駅周辺の大規模未利用地> ・交通利便性を活用した当市に相応しい都市型住宅や地域物産展示販売、アミューズメント、防災、緑の交流空間などに配慮した都市機能の整備を目指す。</p>

【参考】上位計画での駅周辺地区の位置づけ

■村上市都市計画マスタープラン (H22年策定)

村上市のまちづくりの指針となる「村上市都市計画マスタープラン」では、平成42年を目標年に以下の5つを「まちづくりの重点目標」とし、環境にやさしく暮らしやすい「コンパクトなまちづくり」を目指しています。

まちづくりの重点目標 (抜粋)

- 重点目標 1**
若者が定住 若者が活きづく魅力的な暮らしのある村上市
- 重点目標 2**
高齢安心 高齢者が安心して生き生きと暮らせる村上市
- 重点目標 3**
交流拡大 多様な交流による地域や人とのつながりを活かす村上市
- 重点目標 4**
住み心地 歴史文化が薫る豊かな自然に満ちた快適な村上市
- 重点目標 5**
市民協働 市民と行政が互いに支えあう村上市

この中で、村上市街地では「都市拠点の充実」を標榜し、以下の機能強化を指すとしています。(抜粋)

- 都市拠点の充実
- 居住機能の充実
- 都市サービス機能の充実(買物、医療、行政、文化等)
- 地域資源の活用と交流人口の拡大

村上市駅周辺に関連する整備方針としては、以下の点を掲げています。

- 【J R 村上市駅周辺の大規模未利用地】(抜粋)
- 交通利便性を活用した当市に相応しい都市型住宅や地域物産展示販売、アミューズメント、防災、防犯、緑の交流空間などに配慮した都市機能の整備を目指す
- 【J R 村上市駅】(抜粋)
- 橋上駅化工も視野に駅西口の開設を目指す
- 交通結節点としてパーク&ライド、駐輪場、バスプールなど、乗り継ぎ機能向上を目指す

<村上市駅周辺地区に関する記述>

■土地利用の方針 (抜粋)

(2) 市街地内土地利用の方針

- 【中心商業地】
- J R 村上市駅周辺は、鉄道を利用して訪れる来訪者にとって、村上市の顔ともなるべき玄関口であることから、村上市らしさのある景観にも配慮しながら、休憩・飲食・買物・交流などが楽しめる商業地形成を目指します。

(4) 既定用途地域内未利用地の有効活用

- 今後の都市的な開発については、村上市版コンバクトなまちづくりの考えに従い、市街地内の未利用地に優先的誘導し、既存市街地内の多様な都市サービス機能強化と居住人口の確保を目指します。
- J R 村上市駅周辺にある大規模未利用地については、交通利便性を活用した当市に相応しい複合型住宅や地域物産展示販売、アミューズメント(娯楽・楽しみ、防災、緑の交流空間などに配慮した)都市機能の整備を目指します。



■交通体系の方針 (抜粋)

(1) 道路網体系(ネットワーク)づくり

- 【補助幹線道路】
- J R 村上市駅西口周辺の区画整理事業に伴う区画内道路と、その周辺の幹線・補助幹線道路とのアクセス性を考慮した道路の配置・整備を目指します。

(3) 公共交通などへの転換促進

- 【鉄道駅】
- J R 村上市駅をはじめ市内に11箇所ある鉄道駅については、交通結節点としてパーク&ライド(バス停や鉄道駅に併設された駐車場で自家用車から公共交通に乗り換えること)、駐輪場、バスプール(バスターミナル、バスカーミナル)などを整備し、乗り継ぎ機能の向上を目指します。
 - 近隣住民や鉄道利用者の利便性、快適性改善のため、トイレ付き待合機能や雨陰による本影の創出など、環境整備とその維持保全を目指します。
 - 鉄道駅において、最寄りの観光所や周遊ルート案内情報を表示するなど、鉄道を利用する観光客のための利便性向上を目指します。
 - J R 村上市駅については近年、駅西側で商業施設や住宅地整備により都市機能の充実が進められていることから、橋上駅化工も視野に駅周辺の開発を目指します。
- 【パーク&ライドのための環境整備】
- J R 村上市駅をはじめとした鉄道駅の駐車場整備により、主として市民の日常生活における自動車と公共交通の乗継ぎ機能の向上を目指します。



■都市防災の方針 (抜粋)

(1) 都市防災・防犯

- 【都市防災】
- J R 村上市駅周辺において都市防災のための機能(避難場所・備蓄倉庫など)を促進するなど、安全・安心なまちづくりを目指します。

■村上市地域の整備方針 (抜粋)

- 1 「村上市の中核的都市機能を担うまち」の方針
- 【市街地内の整備】
- 商業機能と住宅地の一体的な整備が進んでいるJ R 村上市駅西側(現在工業系用途地域)については、駅に近い便利な住宅地として位置づけ、駅西口開設とともに、都市の魅力づくりに資するよう施設の立地も視野に入れながら、適正な用途地への変更を図ります。
- 3 「晴れるふもと村上で安心して暮らし続けられるまち」の方針
- 【身近な生活基盤の整備】
- J R 村上市駅周辺の未利用地においては、土地所有者の意見も聞きながら、ネーミングライツなどを活用した、市民も訪客も集める潤いのある公園整備などを目指します。

【全体構想】

【地域別構想】

第3節 市民等の意向

第1 駅周辺地区の評価と将来担うべき機能について

平成 25 年 11 月に市民等を対象に実施したアンケートから、駅周辺地区に対する市民意向を以下に整理します。

(1) 現状の評価

現在の村上駅及び駅前空間については、「送迎時の駐停車スペース」や「駐車場の容量」に対する満足度が低く、次いで「東西間での行き来」「駅前空間の広さ」に対する不満が挙げられています。

また現在の駅前地区（駅東側）については、「駐車場の容量」や「公園など屋外で休憩する場」に対する満足度が低く、次いで「にぎやかで明るい雰囲気」「買い物や飲食する場」などに対する不満が挙げられています。

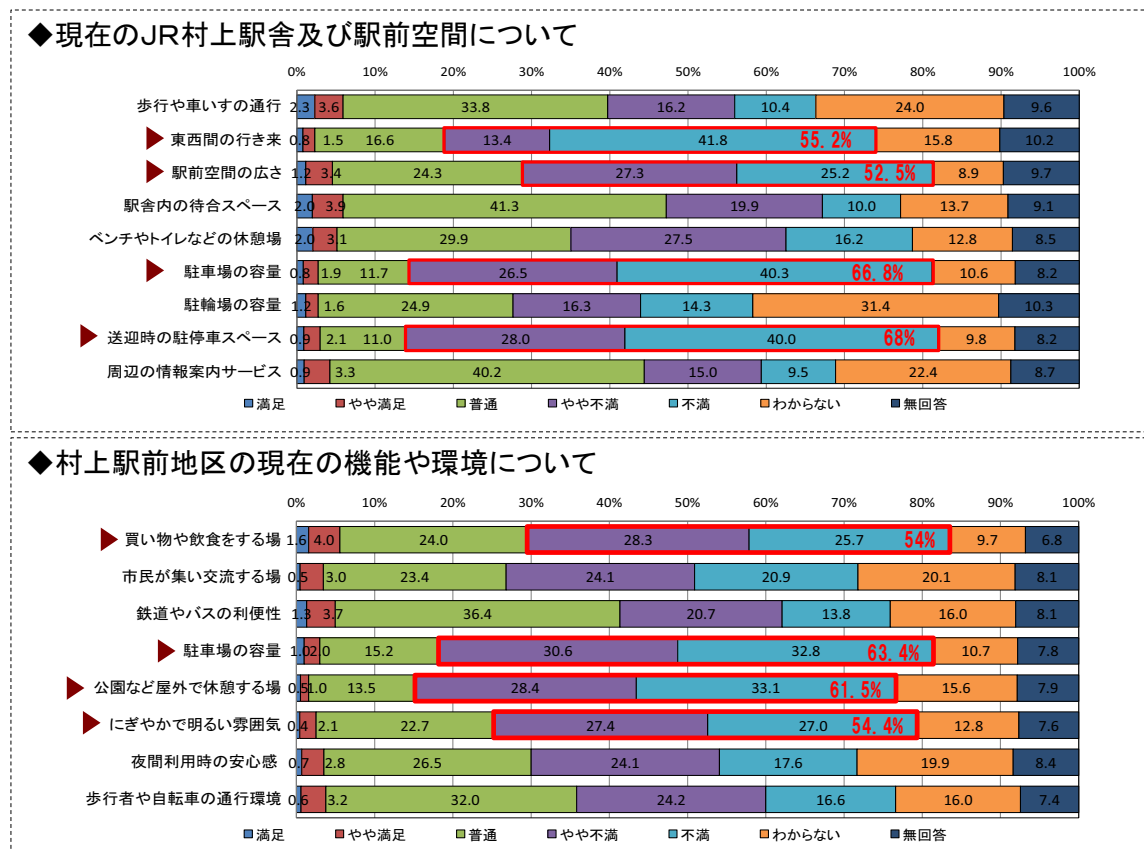


図. 現在の機能や環境に対する評価（市民アンケート）

(2) 駅周辺地区が今後担うべき機能

今後、駅及び駅前地区が担うべき機能としては、「買い物や飲食をする機能」が最も多く、次いで「市民や来訪者が憩い安らぐ場」「公共交通の利便性」などが、どの回答者からも共通して多く挙げられました。

また、駅西側での駅機能については、駅周辺居住者や高校生からは「今すぐにでも必要」という回答が多く挙げられ、一般市民や駅利用者からも「将来的には必要」という回答が多く寄せられました。

◆将来、村上駅及び駅前地区をにぎわいのあるまちにするために、今後担うべき機能・役割

機能・役割	一般市民	駅周辺居住者	高校生等	駅利用者
▶ 買い物や飲食をする機能	814	352	299	115
医療を受ける場	441	134	31	53
子育てや高齢者生活を支援する福祉の場	248	117	43	18
市民が集い交流する場	215	93	64	43
居住の場	31	16	18	2
▶ 市民や来訪者が憩い安らぐ場	499	227	139	84
災害時の避難や救援活動の場	123	73	18	61
▶ 公共交通の利便性	507	207	169	72
来訪者のための場	451	204	77	59
その他	23	20	5	6
わからない	63	15	24	2

(あてはまるものを3つ選択。それぞれ上位3位の施設に着色 ■:1位、■:2位、■:3位) [単位:件]

図. 今後担うべき機能・役割 (市民アンケート)

◆駅西側での駅機能の必要性

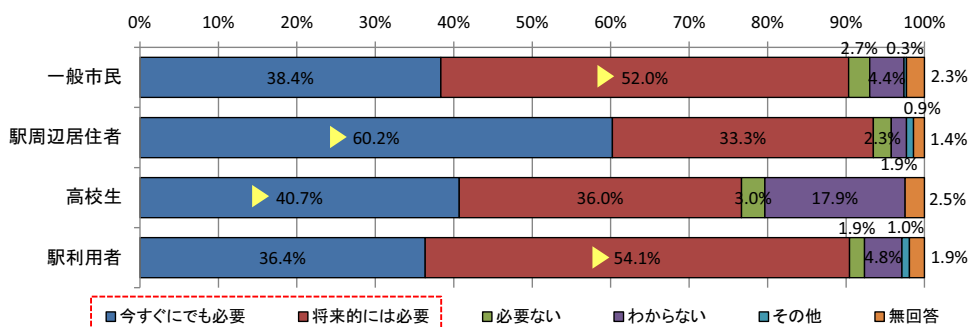


図. 駅西側での駅機能について (市民アンケート)

(3) 大規模跡地の活用について

村上総合病院移転後の跡地について、市が検討していた「統合保育園」以外の利用としては、一般市民と駅周辺住民からは「社会福祉施設」「商業施設」が望ましいという回答が多く、高校生と駅利用者からは「商業施設」「公園・広場」が望ましいという回答が多く寄せられています。

また、旧ジャスコ跡地の将来的な利用については、「多目的広場・緑地」が望ましいという回答が多く寄せられました。

◆村上総合病院移転後の跡地利用

利用方法	一般市民	駅周辺 居住者	高校生等	駅利用者
▶ 社会福祉施設	469	179	89	41
▶ 文化・交流施設	329	138	92	44
▶ 観光交流施設	264	133	38	33
▶ 防災拠点施設	127	84	26	55
▶ 商業施設	379	176	116	58
▶ 住宅地	42	12	8	11
▶ 公園・広場	268	133	107	61
▶ 駐車場	171	49	29	21
▶ その他	55	49	8	5
▶ わからない	101	28	79	8

(あてはまるものを2つ選択。それぞれ上位3位の施設に着色 ■:1位、■:2位、■:3位)[単位:件]

◆旧ジャスコ跡地の将来的な利用

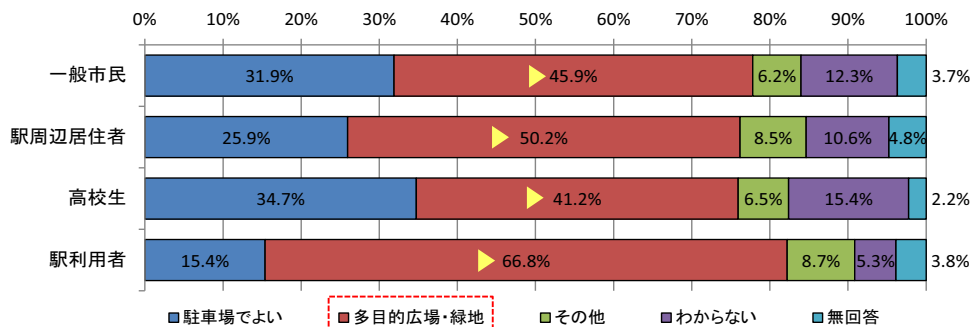


図. 大規模跡地の活用について (市民アンケート)

第2 駅周辺地区の将来像について

市民アンケートの調査結果をもとに、より具体的な課題や解決策について意見交換をするため、平成 26 年 1～2 月の間に計 3 回にわたり市民による座談会を開催しました。座談会では「村上駅周辺地区の全体像」「駅の機能及び移動環境」「駅周辺のまちづくり」について、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

座談会において、駅周辺地区の将来像について次のような意見が示されました。

表. 駅周辺地区の 10 年後の将来像（座談会）

キーワード	将来像・イメージ
にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集うまち ・交流が生まれる町 ・市民も観光客も楽しい町 ・住民の暮らしと活動が見える ・わくわくが広がる駅前 ・まちづくりの息吹が感じられる ・官民が集積した（株）村上の玄関口
暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子供も暮らしやすい町 ・きれいで人情味豊か ・村上で一番便利な地域 ・緑豊かで眺めの良い ・JRと二次交通との連携基地 ・福祉・医療・介護施設の集積 ・災害に適應する町
魅力・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・広域な村上観光のハブ基地 ・村上観光のシンボルゾーン ・海・夕日・山に感動 ・城下町村上の再発見とPR ・物作り・職人の仕事 ・村上の特産品の集積地 ・何でもよいから「日本一〇〇なまち」と言えるまち
健康・元気	<ul style="list-style-type: none"> ・元気ターミナル「発信」・「発進」 ・健康、歩く ・健康ゾーンを作る ・歩いて回ることのできる中心エリア ・若いスポーツの才能
駅西の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・村上駅西口をつくる ・東西往来 ・観光自由通路「夕日ロード」 ・瀬波温泉に歩いて行ける ・駅西も村上の顔だ
おもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ・村上独自の“おもてなし”を感じられるまち ・もてなしの空間 ・駅の両方に観光案内所 ・駅から出たとき、村上だと思える町

資料：「第3回村上駅周辺まちづくりプラン座談会」（平成 26 年 2 月 6 日）の成果より

表. 駅周辺地区のあるべき姿(座談会)

場所	駅 東 側	駅 西 側
<p>駅舎及び駅前広場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体として「東側は城下町」、「西側は瀬波温泉」のイメージをつくるべき ● あくまで駅東側が主。東側をメインに改善する ● 余計な機能、ありきたりの駅前広場は要らない ● 時間つぶしができる空間がほしい ● むやみに広い空間は不要 ● 美観は大事 ● わくわく感、明るい雰囲気にする ● 西口を利用するには、東口も利用する仕組みがほしい ● 汽車の碑の設置場所を再検討 <p><東西共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駐車スペースや歩道に雨除けが必要 ● 学生などの休憩スペースをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅舎を広く、駅東口を横に広げる ● 橋上駅からお城山を望めるようにする ● 自由通路にショッピングモールをつくる ● 観光案内所は駅舎の中にあるべき <p><駅前広場></p> <ul style="list-style-type: none"> ● バス・タクシー・送迎車の動線の整理が必要 ● 送迎車用に広いロータリーを作る ● タクシースペースは小さくてよい <p><駐車場></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅利用者用に駅付近に必要(月極ではなくパーキング) ● 全部無料ではなく、利用しやすいルールづくりが必要
<p>周辺の各種施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「病院跡地の利用」が決まらないと全体が決められない ● 色々な人が訪れ、にぎわいを創出する場であるべき ● 子供と高齢者が交流する場(しかけ)などのアイデアがほしい ● 現在の駐車場は、駅前駐車場とは別もののイメージ ● 駅から駅前通りのおしゃれな雰囲気づくり ● 駅前をまっすぐにし景観を良くする ● 南線に枝垂桜 ● 自転車道を設ける ● 若者が返ってくるように特色のある店を増やす ● 駅から町屋まで連続性があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能は、買う・住む・医療・温泉の窓口 ● 駅西口から、瀬波温泉までのウォーキングルートをつくるのもよい ● 岩船町街道側踏切から駅西側へのアクセスを改善する ● 温泉まで松並木が続くとよい <p><村上総合病院移転後の跡地利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ● キーワードは、「複合」、「多目的」 ● 理想は娯楽、飲食、集会施設、行政機能などの集積 ● イメージ的には「アオール」(長岡市) ● 市民が利用できる施設があるとよい ● 駅前という立地を考えて文化を発信する施設がいい ● 若者にはスポーツ施設、高齢者には福祉施設など ● 保育園だけはどの年代からもよい意見を聞くことはない <p><旧ジャスコの跡地利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ● イベント利用もできる全天候型の広場空間が望ましい

資料：「第3回村上駅周辺まちづくりプラン座談会」(平成26年2月6日)の成果より

第4節 駅周辺地区まちづくりの課題

先に示した地区の現状や将来の可能性、市民意向等をもとに、村上駅周辺地区の将来のまちづくりにおける課題を整理します。

- (1) 駅前の賑わいや玄関口としての魅力に乏しい
- (2) 駅前空間及び公共交通の利便性の低さ
- (3) 駅東西の分断感
- (4) 地区内移動時の制約
- (5) 周辺地区等とのアクセス性
- (6) 居住環境の魅力不足

(1) 駅前の賑わいや玄関口としての魅力に乏しい

- ①商業機能の衰退、連続性が喪失していること（商店街としての魅力低下）
- ②玄関口としての機能が不足していること
 - ・景観的な魅力や統一感、滞留・休憩する場、観光情報等の発信など。
- ③市街地全体の中での駅前地区の役割が乏しいこと
 - ・他地区との関係性・役割分担を明確化する必要がある。
- ④大規模施設跡地[村上総合病院・旧ジャスコ跡地]の利活用
- ⑤地区内に低未利用地（空き地・空き家等）が点在していること
- ⑥にぎわいを創出する取り組みを充実する必要があること
 - ・定期的なイベント、まつり等

(2) 駅前空間及び公共交通の利便性の低さ

- ①村上駅の利用環境（交通結節機能が未熟であること）
 - ・駅前広場スペースが狭いこと等による様々な不便・危険がある。（各動線の重なり、バスやタクシー等の駐停車空間、冬期の除雪環境など） ※一方で、市民の中には「今のままで良い」「画一的な駅前は望まない」という意向もある。
 - ・歩行者・自転車の移動やバス待ち空間の安全性・快適性、送迎車や駐車スペースが不足している。
- ②地区内のバス交通網やバス利用環境
 - ・道路網の不足などにより駅西地区のバス交通ネットワークが未熟で、駅東側への移動において迂回を強いられている。
 - ・バスベイ（バス専用の停車スペース）の不足や上屋（雨露から防ぐために設けた、柱に屋根をかけただけの建物）の未設置によるバス待ち客の快適性に課題がある。

(3) 駅東西の分断感

① 駅東西の連絡性

- ・鉄道横断箇所不足や横断部（踏切）付近の幅員狭小やバリアフリー対応の遅れなどによる円滑・安全上の問題がある。

② 駅西側から駅（鉄道）を利用できないこと

- ・今のままでは、将来の村上総合病院移転により、東西分断感（東西間での移動円滑化のニーズ）が更に増す可能性がある。

(4) 地区内移動時の制約

① 鉄道交差点等における歩行者・自転車空間の安全性・快適性が低いこと

② 歩行空間のバリアフリー環境に課題があること

- ・駅西から交通弱者〔高齢者・車いす利用者〕の駅前移動は困難な状況にある。

③ 駅西地区内における移動の利便性

- ・都市計画道路の未整備により道路網が未熟で、主要道路に機能が集中している。

④ 交通誘導・案内の不足等

- ・自動車交通の誘導（案内標識等）、歩行者自転車交通のサインネットワークなどの充実が求められる。

(5) 周辺地区等とのアクセス性

① 駅周辺地区や周辺拠点等とのアクセス環境（移動手段・利便性の充実）をより高める必要があること

- ・駅から市役所周辺や主要観光地等とのアクセス環境改善。
- ・瀬波温泉や岩船港など駅西側にある拠点への移動環境改善（駅西口の必要性）。

② 駅西地区へのアクセス性の向上

- ・骨格交通体系における高速 I C や国道 7 号から駅西地区への移動環境。

(6) 居住環境の魅力不足

① 低未利用地（空き家・空き地等）の活用・有効利用を図ること

② 住環境の魅力や質を高める機能や空間・施設の充実が必要

- ・公園広場等の身近な遊び場、生活道路の安全安心、買い物・飲食の場など。

③ 住宅地内の通過交通対策

- ・生活道路への通過交通流入等による交通安全対策の充実。

④ 防災・減災への対応

- ・避難路・避難場所の必要性、踏切や狭幅員による緊急車両通行時の制約。

⑤ 冬期の除雪サービスの充実（駅前空間、駅周辺地区内の道路等）